

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年6月12日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>夜間中学における教育活動の充実に向け、生徒の実態等を踏まえた必要な環境整備の在り方について、次の事項に関する調査研究を実施する。</p> <p>ア. 教育課程に関すること イ. 教職員の配置・研修に関すること エ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>【具体的な研究例】として</p> <p>ア. 専門スタッフ（通訳）を活用した教育活動の在り方について イ. 生徒の実態に応じた教材づくり、日本語指導の充実に向けた工夫・研究 エ. 交流活動等を通じた学習による今後の夜間学級の在り方</p>
調査研究のねらい	<p>主に次の点について取り組み、生徒の実態等を踏まえた教育環境の整備、充実を進める。</p> <p>ア. さつき学園夜間学級は主に日本、中国・台湾、韓国・朝鮮国籍の方が在籍している。又、近年、ネパール、パキスタン、インド国籍の生徒の入学が増加してきている。これらの生徒は日本の義務教育の学習内容を理解する前提となる日本語について、「読めない」「話せない」「書けない」という課題を有している。これらの生徒の抱えている諸課題解決のための効果的な学習環境や指導、および生徒指導の在り方について研究する。</p> <p>イ. 生徒の実態に応じた教材を作成し、日本語指導等の充実に向けた工夫・研究を行う。</p> <p>エ. 交流活動は、他団体を受け入れることで生徒の日本語での発表、作文を書く等の意欲を引き出している等、本学級の教育活動に関わる重要な活動となっている。一方、公立中学校夜間学級の存在がそれを必要とする者、および社会全般に認知されているとはいいがたい状況も存在する。そこで、交流活動を通して今後の夜間中学の在り方を研究、発信していく。</p>
調査研究の成果	<p>ア. 通訳者を交え、「日本語理解に関する課題」を有する生徒に対して行事や交流活動で対象生徒たちの隣に寄り添い通訳</p>

	<p>することにより、生徒が積極的に発言することができた。</p> <p>ア. 通訳者を交え、高等学校進学を考える外国籍の生徒を早く登校させ、日本語を含めた個別の学習を行うことにより、高等学校進学を考える外国籍生徒の出席日数が多くなり、進路選択の幅が広がった。</p> <p>通訳者が進路相談に同席し、日本の入試制度の細やかな部分を伝えることができ、進路決定の選択が広がった。</p> <p>イ. 生徒一人ひとりの実態に応じた教材を作成することで、家に持ち帰り自主的に学習する等、夜間中学生のプリントで行う個々の学習に対する意欲が高まった。</p> <p>ア及びエ. 生徒の学習意欲、学習成果の充実に向け、夜間学級用の掲示場所を設け工夫した掲示を行った。生徒の学習している場面や作品などの掲示することを通して、夜間学級生徒の関心が高まった。夜間中学生のみならず、昼間の生徒の関心が高まる、交流にくる団体の目に留まる等、外部への効果的な発信となった。</p> <p>交流の際には、生徒の作文を載せた冊子を作成し、生徒自身が発表することを通して、授業や交流活動での発表を促し、日本語による自分の思いを表現する力が高まった。</p> <p>エ. 生徒文集「まなび」の作成を通して、生徒自身の生き立ちを振り返り作文に書き表すことで、訴えたいことが定まり、交流活動や学習に役立った。</p>
--	--